

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入 (人)	派遣 (人)	備考:成果・展望	
H25	5月	MJIIIT 博士後期学生の筑波大学への受入れ・共同指導体制の構築	○	○		1		MJIIIT博士課程後期学生を筑波大学生命環境系に受入れ、実験・論文執筆指導本成果を本学とMJIIITとの共同指導体制の雛形とする	
	6月	UTM副学長を団長とする訪問団が来学	○	○	○	10		UTM、Zaini副学長が来学し、白岩系長らと今後の連携に関する意見交換及び施設見学	
	8月	MJIIITへ教職員派遣	○	○			【1】	MJIIITへ外務省及び本学から教員の長期派遣(杉浦則夫特命教授1名、3年間)	
	9月	環境系専攻実施の短期受入プログラムにUTM大学院生3名を受入れ	○	○			3	専攻・全学大学院授業の履修・単位認定、研究室指導、学外研修	
	11月	ジョイントディグリープログラム(JDP)構築に向けた事前協議	○	○			【4】	Megat MJIIIT 院長が来学し環境グリーン技術分野のJDP構築に向けた事前協議	
		MJIIIT 産業博物館整備への協力	○		○				MJIIIT 産業博物館にて開催のMJIIIT Japan Dayに研究成果物、大学紹介資料提供
	12月	UTMへ教職員派遣(筑波大学-MJIIIT/UTM藻類バイオマスイエネギージョイントセミナー)	○		○			【4】	UTMIにおいて「藻類研究シンポジウム共同主催、研究発表 UTM 国際部訪問し連携強化について意見交換。支援室職員1名同行。北陸先端科学技術大学院大学から1名参加。(日本から合計5名参加)
		筑波大学生命環境系マレーシア・クアラルンプールオフィス開設	○	○	○			【4】	MJIIIT に筑波大学生命環境系マレーシア・クアラルンプールオフィス開設。
ジョイントディグリープログラム(JDP)構築に向けた事前協議		○	○				【4】	白岩系長ら MJIIIT 訪問しSabariah MJIIIT 副院長と意見交換	
H26	1月	マレーシア・シンガポールにおける環境分野高等教育に関する聞き取り調査	○		○		【1】	高等教育政策の長期的展望に関する関係者に対する聞き取り調査(マレーシア教育省、マラヤ大学、MJIIIT)(甲斐田)。マレーシアでの調査拠点として筑波大学マレーシアオフィスを活用	
	2月	MJIIIT技術職員の受入れ	○	○	○		【2】	生命環境系(内海研究室)で受入れ、技官の役割、施設・機材管理・運営方法等に関する研修を実施。	
	3月	AsOBiNet学生派遣(学群生)			○			2	アジア・オセアニア大学院生ネットワーク(AsOBiNet)事業により、Cosmos-Café Internationaleの学生コーディネーターの研修をシンガポール大学およびマレーシア工科大学において実施した。その際、KLオフィスが滞在及び学生との交流をサポートした。
UTM-MJIIIT学部生5名・准教授1名を短期受入れ		○	○			5 【1】		藻類および社会的環境管理に関する講義・見学、学生との交流	
H26	4月	マレーシア工科大学(UTM)と筑波大学の連携推進	○	○			7	UTMジョホールバルキャンパスとの研究教育のための連携促進について、筑波大学において代表団と意見交換を行った。	
	5月	GLOBAL OUTREACH PROGRAMME@JAPAN (SAKURA '14)によるマレーシア工科大学と筑波大学の交流	○	○	○		23	UTM学部学生代表による日本訪問の際に、日本の大学の代表として筑波大学を訪れ大学紹介や授業参加、学生交流等を行うことで連携を強化した。なお、UTM学生は4月28日～5月4日の間、筑波大学一の矢学生宿舎を拠点に、マレーシア大使館訪問等様々なプログラムに参加した。	
		マレーシアジョホール州府関係者による筑波大学および研究学園都市視察			○		【3】		UTM執行部を含むマレーシアジョホール州の州府関係者による筑波研究学園都市の視察をサポートすることで、州政府との連携を強化した。
	5月	UTM学長フォーラム2014 21日～23日			○		【1】	マレーシア・ジョホールバルで開催される同会議に白岩系長が参加し、International Collaboration Sharingをテーマに発表し、連携強化を促進した。	
		マレーシア日本国際工科院(MJIIIT)と筑波大学の連携推進	○						MJIIITと筑波大学の実務者レベルでの会議を行うことで、ジョイントスーパービジョン等を含めたMJIIITと筑波大学の研究教育連携の推進を行った。
		水資源・水環境比較調査研究会合	○		○				マレーシアで行われる水資源・水環境調査研究について本学および国内の研究者、学生実務者と会合を開き、国際共同研究活動を推進した。
		MJIIIT Environmental Green Technology (EGT)小委員会会合			○				MJIIITのEGT小委員会会合を行い、EGTのリエゾン担当(筑波大学)として運営サポート等を強化した。
	6月	MJIIITで筑波大学等が連携で主催してシンポジウムを開催	○	○				【7】	MJIIITで筑波大学等が連携で主催して「これからのバイオマス高度利用」に関するシンポジウムを開催し、マレーシアの研究者、学生との白熱した討論及び研究指導が行われ、有意義な成果が得られた。(参加者は40名程)
		UTMおよびMJIIIT学部学生の筑波大学受入		○				2	UTMおよびMJIIIT学部学生対象インターンシッププログラムによる学生を受け入れることでUTMおよびMJIIITとの教育、研究の連携を促進した。
		MJIIIT,EGT大学院修士課程カリキュラム作成会議			○				EGTでは、新しくトートコース設定のため、主に筑波大学生命環境科学研究所のカリキュラムを参考に履修科目、内容などを具体的に作成する会議を行い、本学をはじめ大阪大学も協力し、展開することで一致した。
	7月	MJIIIT 大学院生の筑波大学受入		○				4	マレーシア政府のサポートによるMJIIIT 共同指導奨学金プログラムでの大学院生を受け入れることでMJIIITとの教育、研究の連携を促進した。
		ジョイントディグリープログラム推進会議			○			2	MJIIITと本学でのジョイントディグリープログラム構築に関してチューニングを含む意見交換を行い、プログラムの実現を目指した。
	8月	日本大学コンソーシアム(JUC)会合			○				JUC会合を日本の外務省で行うことで、MJIIITの運営サポート等を強化した。
MJIIIT Environmental Green Technology (EGT)小委員会会合				○				MJIIITのEGT小委員会会合を行い、EGTのリエゾン担当(筑波大学)として運営サポート等を強化した。	
MJIIIT学部学生の筑波大学受入		○	○					MJIIITの学生を受け入れることで研究教育連携を推進すると共に、ジョイントスーパービジョンの体制を確立し今後の学生の学術交流基盤を作成した。	
マレーシア教育省次官、MJIIIT院長一行が学長を表敬訪問				○		【7】		Zainiマレーシア教育省次官、Rosa UTM副学長補佐、Rubiyah MJIIIT院長一行が永田学長を表敬訪問し、施設見学や意見交換して、さらに具体的に教育・研究の積極的な連携を進めることを確認した。	

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望
	9月	MJIIITとジョイントディグリープログラムについてLOIを締結		○				江面研究科長とRubiyah MJIIIT院長との間でジョイントディグリープログラムについて、LOI(意向確認書)を締結した。
		MJIIITへ教職員派遣	○	○			【1】	MJIIITへ外務省及び本学から教員の長期派遣(岩本浩二准教授1名、3年間)
		JASSO「MJIIIT大学院学生共同指導プログラム」面接		○				JASSOのサポートによるMJIIIT大学院学生共同指導プログラムの現地面接実施のサポートを行った。
		水資源・水環境比較調査研究実施	○					9月から11月にかけて水資源・水環境比較調査研究の実施およびサポートを行い、国際共同研究活動を推進した。
		「海外拠点フェア」でパネルポスター展示			○			TGSWの期間中に開催された「海外拠点フェア」でパネルポスターを展示して、本学の教職員・学生のみならず、海外の研究者に広く広報した。
	10月	筑波大学長一行がマレーシア訪問			○		【6】	永田学長一行がマレーシア工科大学を公式訪問して、今後の連携をますます強化した。また、マレーシア教育省次官、在マレーシア日本国大使、マラヤ大学、日本企業パナソニックを訪問して、今後の協力依頼を兼ねて、現在の状況を説明した。
		Tsukuba-Day実施			○			永田学長のUTM MJIIIT訪問に合わせて、Tsukuba-Day実施し、マレーシアKLオフィスを中心に本学をアピールした。
		バイオマス・バイオエネルギー・水処理研究シンポジウムの共同開催	○		○		1 【4】	クアラルンプールでバイオマス・バイオエネルギー・水処理研究シンポジウムを共同開催し、筑波大学とMJIIITやUTMとの学術交流のさらなる活性化を図ると共に、若手研究者や大学院生に海外での発表の機会を与えた。
	11月	水資源・水環境比較調査研究実施	○					筑波大学、UTM、MJIIITとの水資源・水環境比較調査研究の一環として、長崎大学、東洋大学、明星大学が加わり、KL周辺の水質調査を実施し、国際共同研究活動を推進した。
		「マレーシア工科大学交流プログラム」によるUTM学生の受入		○		11		「マレーシア工科大学交流プログラム」によるUTM学生を筑波大学に受け入れ、研究室訪問やキャンパス見学等アカデミックな交流活動を行い有意義な見学会を実施した。
MJIIIT-JUCジョイントシンポジウム参加、協力				○		【1】	クアラルンプールで行われるMJIIITとJUCが共同で実施するジョイントシンポジウム開催の協力を行うと共に、本学からもシンポジウムに参加することで、MJIIITおよびJUC参加校との間の連携を強化した。	
H27	1月	JASSO「MJIIIT大学院学生共同指導プログラム」学生受入	○	○		3 【1】	MJIIIT大学院学生共同指導プログラムによる大学院生を受け入れることでMJIIITとの教育、研究の連携を促進した。	
		海外拠点マレーシアKLオフィス職員のTuan Azma氏が本学で研修のため来日			○	【1】	筑波大学海外拠点マレーシアKLオフィスの職員Tuan Azma氏が筑波大学で研修を受けるため1月12日～16日の日程で来日され、本学国際室における国際担当者との打合せやMalaysia-Dayのティーパーティー参加、浅草・科博での日本文化・科学技術の探求等の研修を行った。	
		海外拠点マレーシアKLオフィス主催の「Malaysia-Day in Tsukuba」におけるティーパーティーの開催			○			筑波大学海外拠点マレーシアKLオフィスの活動を本学の教職員及び学生に広報することを目的として「Malaysia-Day」が1月15日(木)に開催され、マレーシアから直送されたお茶とお菓子によるティーパーティーにおいてマレーシア関係の教職員・学生及びマレーシア留学生の紹介や海外拠点の活動状況を紹介した記事を掲示して、国際交流を深めた。また、JICA等の学外からの出席もあり、大盛況の中で開催された。
	2月	さくらサイエンスプランにおけるマレーシア国際工科院(MJIIIT)の大学院生等の受入	○	○		10 【2】	マレーシア国際工科院(MJIIIT)の大学院生等10名が2月18日に来学し、開講式を行った。これから3月10日までの予定で、研究テーマに応じた研究室で筑波大学院生と研究チームを組んで共同研究を行うことにより、研究をベースとした両国大学院生の交流を図る。	
		「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業キックオフシンポジウムでパネルポスター展示			○	【1】	筑波大学「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業キックオフシンポジウムで本学の海外拠点のパネルポスターを展示し、クアラルンプールオフィスを紹介した。	
	3月	MJIIITにおいて教育施設視察ならびに水資源・水環境比較調査研究の実施		○			【2】	本学教員がMJIIITを3月12日から15日の日程で訪問し教育研究施設を視察する他、現地関係者と研究打ち合わせを行った。
		筑波大学在学学生を対象としたマレーシア短期派遣プログラムの実施	○	○			5	筑波大学とマレーシア工科大学研究教育交流活動の一環として、マレーシア短期派遣プログラムを実施し、筑波大学に在学する5名の学生を平成27年3月13日から3月20日の8日間の日程でマレーシア工科大学へ派遣した。
		MJIIITにおいてジョイントディグリー協議会合	○		○		【2】	本学教員がMJIIITを3月16日から17日の日程で訪問し、Rubiyah院長、Zuriati専攻長ほか関係者とジョイントディグリー推進に係る詳細な協議を行った。
		MJIIITコンソーシアム第14回会合			○		【3】	MJIIITコンソーシアム第14回会合に、白岩KLオフィス運営管理者、ベントン国際担当副学長、石野国際室担当課長が出席した。
		MJIIIT院長一行が本学を訪問、防災教育連携に関する協議を実施	○		○	【6】	MJIIIT院長・教員一行が来学し、MJIIITにおける防災教育に関する本学との連携について、生命環境系長および生命環境系教員と協議を行った。合わせて、ジョイントディグリー推進に関する進捗状況を確認した。	
高校生のMJIIIT訪問のサポート(GFESTプログラム)		○		○		16 【4】	教育プログラムGFESTで、高校生16名及び引率4名がMJIIITを3月31日～4月2日の日程で訪問し、研修を行う。研修の実施にあたり、クアラルンプールオフィスが受入のサポートを行う予定となっている。	

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望	
H27	4月	高校生のMJIIIT訪問のサポート(GFESTプログラム)	○		○		16 【4】	筑波大学主催の教育プログラムであるGFESTで、3月31日～4月2日の日程で高校生16名及び引率4名がMJIIITを訪問し、研修をおこなった。研修の実施にあたり、クアラルンプールオフィスが受入をサポートした。	
		「ライフイノベーション学位プログラム」紹介セミナー開催			○		【1】	中嶋光敏教授(北アフリカ研究センター・生命環境系)がマレーシアを訪問し、4月1日、本学協定校であるMJIIITとUPM(マレーシアプトラ大学)で、本年10月から本学が開設する「ライフイノベーション学位プログラム」を紹介するセミナーを開催した。クアラルンプールオフィスは開催にあたってのサポートをおこなったとともに、関係機関へセミナー開催を周知した。	
		「MJIIIT同窓会in日本 第1回総会・懇親会」開催				○		明治大学 駿河台キャンパスで「MJIIIT同窓会in日本 第1回総会・懇親会」が開催された。明治大学福宮賢一学長、JICA柳沢香枝理事をはじめとする多くの関係者、日本人留学生16名、計50名が参加した。	
		UTM Study Abroad Fair 2015参加				○		【2】	4月12日～13日、UTM主催のStudy Abroad Fair 2015に参加し、留学を希望する学生に筑波大学の紹介するとともに、学生からの個別の質問へ対応した。
		AIMS/TAG program フォローアップミーティング開催	○	○				18 【6】	4月25日、1st TAG/AIMS program Follow-up Meeting for Outbound Studentをクアラルンプールオフィスで開催した。会場の手配、準備に加え、現地のロジ等のサポートをおこなった。
		SGH土浦第一高等学校説明会			○			【1】	4月27日、スーパーグローバル選抜高等学校(土浦第一高等学校)へMJIIIT教授杉浦則夫が赴き、教育交流の説明会を実施した。
		ジョイントスーパービジョン指導教員会合の実施	○	○				【1】	マレーシア政府のサポートによるMJIIIT 共同指導奨学金プログラムで筑波大学に派遣された共同指導の学生について、指導教官が本学を訪問し、受け入れ教員と会合をおこなった。
		海外拠点長等連絡会参加				○	【1】	4月22日、筑波大学で開催された海外拠点長等連絡会に参加した。連携を強化することで、筑波大学海外オフィスの機能向上を図る。	
5月		第7回マレーシア工科大学主催学長フォーラム 2015参加				○	【3】	5月13日、第7回マレーシア工科大学主催学長フォーラム(7th University Presidents Forum 2015)にベントン副学長が参加し、基調講演を行なった。	
		マレーシア政府ムフェディーン副首相パゴ地区研究学園都市建設視察	○	○			【1】	5月20日、マレーシア政府ムヒューディーン副首相、ザイニー次官一行がジョホールバル・パゴ地区に建設中の研究学園都市(2018年完成予定)を視察した。副首相は、参加者、報道陣に向けた今後の計画の説明の中で、教育・研究モデル事業として本学が主導し、UTM/MJIIITとの連携により進めている亜臨界水高度廃棄物変換事業と防災センター設置事業について公に言及し、さらにザイニー事務次官が、この2つの事業の意義、重要性について強調した。	
6月		宮本邦明教授がマレーシア防災関連教育研究プログラム推進指導のためMJIIITを訪問	○	○			【1】	6月4日、5日、持続環境学専攻 宮本邦明教授がJICAの招聘によりMJIIITを訪問、マレーシア政府がマレーシア工科大学を介しMJIIITで計画・推進している防災関連の研究センターおよび修士課程の設立への助言、指導のため、会議に出席し、講演をおこなった。	
		Zaini客員教授(マレーシア教育省事務次官)による特別講義	○	○			【1】	6月11日、Zaini生命環境系客員教授(マレーシア教育省事務次官・前マレーシア工科大学学長)による特別講義が生命環境科学研究科生命産業科学専攻主催により行われた。「Thirsty in Tropical Monsoon: Water Sustainability Parameters for Tropical Countries」と題した講義は、マレーシアにおける熱帯特有の水需給バランス問題から、雨季に発生する洪水等の災害問題、河川をめぐる価値創出、環境持続性指標の開発、持続性に関わる専門家が備えるべき俯瞰的視点と専門技術・知識の両立にまでいたる広い内容で、生命産業科学専攻・環境科学専攻を中心に約80名の学生・教員が聴講し、学生からの質問をふまえた双方向型講義が展開された。	
		マレーシア教育省事務次官がベントン副学長を表敬訪問	○	○			【1】	6月11日、Zainiマレーシア教育省事務次官がベントン副学長を表敬訪問した。Zaini事務次官からはマレーシアにおける高等教育の現況、今後の海外大学・機関との交流計画等について説明があり、ベントン副学長からは、昨年8月に生命環境科学研究科と締結したLOIIにより開設準備を開始したマレーシア日本国際工科院(MJIIIT)とのジョイントディグリープログラムについて言及があり、今後の交流促進を継続して進めることを確認した。	
		茨城県下妻市代表団のクアラルンプールオフィス訪問				○		6月16日、茨城県下妻市から稲葉本治市長、中山義則市長公室長ら5名がクアラルンプールオフィスを訪問した。今回の一行のマレーシア訪問は、日本のメロンの普及させる試みの一環。一行は大型デパートで下妻市内で栽培されているメロンのPRや試食会を実施した。	
7月		マレーシア日本先端研究所(仮)のための筑波大学教員の協力合意	○	○				7月6日に、マレーシア日本先端研究所(仮)の設立にむけて、防災および藻類バイオマスの研究分野での筑波大学教員の研究・教育、企画などソフト面での指導・協力に関する同意が得られた。	
		マレーシア日本先端研究所(仮)設立の内諾	○					7月14日にマレーシア日本先端研究所(仮)設立に関する教育省の内諾が得られた。本センターは防災と藻類バイオマスの研究を主な柱とする研究所であり、いずれも本学の教員が協力的に深く関わることから、本センターを拠点にMJIIIT/UTMさらにマレーシア国との協力関係が促進される。	
		ジョイントディグリープログラム推進会議		○	○		【1】	7月16日にMJIIITの担当者が来学し、辻村専攻長らとジョイントディグリープログラム推進に係る詳細な協議を行った。	

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入 (人)	派遣 (人)	備考:成果・展望
		バゴ地区大型プロジェクト計画最終合意	○					7月22日に学園都市予定バゴ地区で実施される亜臨界水処理を用いた有機性廃棄物の高度利用に関する大型プロジェクトの計画に関して、筑波大学KLオフィスの仲介によりマレーシア側UTM本部と日本側パートナーとの最終的な合意がなされた。
		筑波大学からの協力・指導招聘教員承認	○	○				7月30日に筑波大学教員の招聘教員候補者がマネジメントミーティングで承認された。これにより本学とMJIITとの研究および協力の連携がさらに強化される。
		TAG-AIMSプログラム第一回受入学生フォローアップミーティング開催		○	○		35 【5】	8月2日、TAG-AIMSプログラム第一回受入学生フォローアップミーティング(1st TAG-AIMS Program Follow-up Meeting for Inbound Student in University of Tsukuba Kuala Lumpur Office)がMJIIT/UTM及びクアラルンプールオフィスで開催され、会場の手配、準備に加え、現地のロジ等のサポートをおこなった。
		日本再興戦略スーパーグローバルハイスクール指定校(SGH)茨城県立土浦第一高等学校とマレーシア工科大学/マレーシア日本国際工科院(MJIIT)の連携交流事業展開開始		○	○		46	8月18日、19日、茨城県立土浦第一高等学校の教員・生徒44名、他2名がマレーシア・日本国際工科院を訪問し、本学主導の連携交流事業展開として研究事業を開始した。この文部科学省プロジェクトは今後4年間に渡り実施される予定。
		International Conference on Sustainability Initiatives (ICSI)の実施協力・参加	○	○			【2】	8月24日、25日、MJIITの主催で行われた持続性社会構築のための総合シンポジウムの実施に協力し、若手研究者や大学院生に海外での発表の機会を提供した。本学からは杉浦則夫特命教授、岩本浩二准教授ほか、日本から白岩善博学長補佐、大根田修国際室長が出席した。
	8月	MJIITにおいて教育施設視察ならびに水資源・水環境比較調査研究の実施	○				【1】	本学教員がMJIITを8月27日から9月4日の日程で訪問し現地関係者と研究打ち合わせを行い、水質調査を行った。
		MJIITにおいてジョイントディグリー協議会合		○	○		【1】	本学教員がMJIITを8月27日に訪問し、関係者とジョイントディグリー推進に係る詳細な協議を行った。
		MJIITコンソーシアム第15回会合	○	○	○			8月31日、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)コンソーシアム(JUC)第15回会合が、外務省にて開催され、ベントン・キャロライン副学長、白岩善博学長補佐、松崎広好国際室担当課長が出席した。
		MJIITコンソーシアム、外務大臣表彰受賞	○	○	○			8月31日、マレーシアにおける国際協力の推進に尽力し、もって日本と諸外国との友好親善に寄与した功績により、MJIITコンソーシアムが外務大臣表彰を受賞した。本学もその一員として、岸田外務大臣からの表彰状を受領した。
		参議院代表団MJIIT視察			○		4	9月7日、参議院代表団がMJIITを視察した。東方政策の集大成としてのMJIITの活動状況調査が目的で、主に労働者倫理、日本式工学の導入状況などの議論を行った。また、共同指導では特に本学が活発に受け入れを行っていることが話題に出た。出席者は、参議院議員太田房江先生、森本真治先生、新妻ひでき先生、参議院国際部国際会議課倉田保雄氏、大使館員の方々、MJIITからルビヤユソフ院長、小林史典MJIIT副院長、杉浦則夫教授、福田応夫教授、JICAの方々。
		AIMS/TAGプログラム受入学生のサポート		○		1		9月10日、AIMS/TAGプログラム受入学生である本学学生1名(生物資源学類4年生 小倉舜君)がMJIITの環境グリーン工学科に留学するため、マレーシアクアラルンプールに到着。本学マレーシアクアラルンプール・オフィスがサポート予定。初めて接するマレーシアの文化、風習、大学環境等をレポートしてもらう予定。
	9月	白岩善博教授がMJIIT/UTMの客員教授に任命	○	○				9月28日、生命環境系 白岩善博教授がマレーシア・日本国際工科院(以下、MJIIT)およびマレーシア工科大学(Universiti Teknologi Malaysia,以下、UTM)の客員教授に任命された。MJIITと筑波大学生命環境系は2013年12月の筑波大学マレーシアクアラルンプールオフィス開設以来、環境工学・藻類バイオテクノロジーを中心とした活発な教員・学生交流と教育・研究協力を推進しているが、これにより、さらなる連携強化が期待される。
		Tsukuba Global Science Week 2015: University of Tsukuba Overseas Alumni Conference 2015に筑波大学マレーシア同窓会代表者が出席			○			9月28日、筑波大学主催Tsukuba Global Science Week 2015(会場:つくば国際会議場)で、世界9地域の現地同窓会代表を招きUniversity of Tsukuba Overseas Alumni Conference 2015が行われ、各代表者から現地の同窓会ネットワーク及び本学卒業後の自身のキャリア形成についての発表が行われた。マレーシアからは筑波大学マレーシア同窓会代表者、クアラルンプール・オフィス所長、杉浦則夫特命教授、同副所長岩本浩二准教授が出席した。昼食後におこなわれた在留学生との交流会では、各地域から本学に留学している学生たちと懇談し、交流を深めた。
		マレーシア交流会を開催			○			9月30日、筑波大学マレーシア同窓会の発足にともなうマレーシア交流会が生命環境系のある総合研究棟A棟にて開催された。生命環境系長の松本宏系長の挨拶で始まった交流会には、本学マレーシアクアラルンプール・オフィスの杉浦則夫特命教授、岩本浩二准教授、前クアラルンプールオフィス長の白岩善博教授のほか、筑波大の「Trans-ASEAN Global Agenda Education Program(TAG-Program)」で来日中のマレーシアからの学生らが本学に在籍しているマレーシア人留学生らとともに参加し、盛況のうちに終了した。
		筑波大学においてジョイントディグリーワークショップを開催		○	○			9月29日および10月2日に筑波大学において、辻村専攻長、内海真生准教授、岩本浩二准教授、甲斐田直子助教が参加し、ジョイントディグリープログラムの筑波側教科についてコースアウトラインの設定作業を行った。

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望
10月		MJIIT防災・減災センター(DPPC)設計等に関する会合の開催	○	○				10月1日および2日にマレーシア日本先端研究所(仮)下に設置されるDPPCの設計等に関する打ち合わせが、宮本邦明教授、杉浦特命教授、マレーシア側担当者他の出席の下行われた。
		MJIIT藻類バイオマス施設設計等に関する会合の開催。	○	○				10月2日にマレーシア日本先端研究所(仮)下に設置される藻類バイオマス施設の設計等に関する打ち合わせが、白岩善博教授、鈴木石根教授、岩本浩二准教授およびマレーシア側担当者の出席の下行われた。
		マラヤ大学予備教育部日本留学特別コース(AAJ: Ambang Asuhan Jepun)へ学生リクルートのために訪問	○		○			10月20日に杉浦則夫特命教授および岩本浩二准教授がAAJに訪問し、水野俊夫団長、齋藤達也教諭、成田雅昭教諭と面談し、マレーシア学生への筑波大学紹介やマレーシアの教育制度等の調査に関して討議した。
		MJIITの日本語ホームページ開設			○			10月21日、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)の日本語ホームページが開設された。開設にあたっては本学クアラルンプールオフィスの岩本浩二准教授を中心として作業が進められた。
		MJIIT第1回防災小委員会	○					10月22日、外務省の議事進行のもと、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)第1回防災小委員会がJICA本部で開催された。本学からはベントン国際担当副学長、白岩善博学長補佐、生命環境系浅沼順教授、システム情報系甲斐田直子助教、マレーシアからは本学クアラルンプールオフィス所長杉浦則夫特命教授が出席した。
		DPPC発足	○					10月28日MJIITディナーにおいて、ジョハリ財務副大臣、ザイニ高等教育省事務次官出席の下、Disaster Preparedness and Prevention Centre (DPPC)の発足が公式にアナウンスされた。
11月		マレーシア高等教育省事務次官が永田学長を表敬訪問	○	○		[1]		11月16日、Zainiマレーシア高等教育省事務次官が永田学長を表敬訪問した。ザイニ次官からは、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)の教育研究の状況について説明があり、永田学長からは、本学が、日本、マレーシアの両国政府間のプロジェクトとして設置された防災小委員会の幹事校になったことが報告された。
		Zaini客員教授(マレーシア高等教育省事務次官)による特別講義	○	○		[1]		11月16日、Zaini生命環境系客員教授(マレーシア高等教育省事務次官・前マレーシア工科大学学長)による特別講義が生命環境科学研究科生命産業科学専攻主催により行われた。同客員教授による特別講義は、6月に続き本年度2回目。「Eco-Strategy: Wealth Creation, Environmental Sustainability」と題した講義では、環境の保全に関する研究や政策立案におけるStrategy(戦略)の重要性について、具体的な事例を交えながら、社会・環境・経済の3つが混ざり合う領域に持続可能な発展がある、missionとvisionの違いは何か等、Eco-strategyの本質に係る内容まで幅広く話された。生命産業科学専攻・環境科学専攻、生物資源科学専攻を中心に約20名の学生・教員が聴講した。聴講者全員に赤・黄・緑色のカードが配布され、講義の重要な局面でそれぞれの意思や意見を3色のカードの色で表示できる工夫がなされた授業方法が取り入れられ、前回よりもさらに会場の意見を反映させる双方向型講義が展開された。
		Zaini客員教授(マレーシア高等教育省事務次官)による職員向けSDセミナー		○	○	[2]		11月16日、グローバル・コモンス機構グローバル・スタッフ育成室が、国際室との共催によりZainiマレーシア高等教育省事務次官を講師に招き、職員向けSDセミナーを実施した。Zaini事務次官は、「高等教育—そのグローバルな現実」と題し、世界の大学ランキングの現状、各国の高等教育への進学率などを数値やグラフを用いて具体的に示し、日本にとって留学生や外国人教員を増やすことの必要性を説明するとともに、オンラインによる新しい形の大学である「Udacity」を紹介し、既存の大学が変革を余儀なくされていることを強調した。セミナーは英語で行われ、約40名が参加した。大学職員にとって非常に刺激的な内容に、活発な質疑応答がおこなわれ、盛況のうちに終了した。
		Zaini客員教授(マレーシア高等教育省事務次官)がシステム情報系社会工学域を訪問			○	[1]		11月16日、Zaini生命環境系客員教授(マレーシア高等教育省事務次官・前マレーシア工科大学学長)が、システム情報系社会工学域を訪問し、社会工学域教員より、筑波研究学園都市開発計画および現在までの発展に関する説明を受け、意見交換を行った。
		本学図書館情報エリア支援室職員がKLオフィス来訪			○	[2]		12月3日、図書館情報エリア支援室から小屋主任および筒井一般職員がKLオフィス来訪。杉浦オフィス長、岩本副オフィス長、Tuan現地職員が、海外拠点活動・MJIITとの連携を説明。AIMS/TAGプログラム短期留学中の小倉君(生物資源学類)が実体験を語る。「トランスボーダー大学」を見据え、図書館機能強化、複数民族共生の実地調査を目的とし、プレゼン・情報交換をMJIITおよびUTMIにおいて行う協力をした。
		MJIIT第2回防災小委員会	○					12月4日、幹事校として本学宮本邦明教授の議事進行のもと、マレーシア日本国際工科院(MJIIT)第2回防災小委員会がJICA本部で開催された。本学からは宮本教授、生命環境系浅沼順教授、システム情報系甲斐田直子助教、松崎広好国際室担当課長、国際室MJIIT担当山下陽子、マレーシアからは本学クアラルンプールオフィス所長杉浦則夫特命教授、岩本浩二准教授が出席した。
		九州大学MJIIT UTM-KLサテライトオフィス開所時のワークショップに協力			○			12月7日、九州大学MJIITサテライトオフィスの開所式があり、その後のワークショップで、杉浦則夫特命教授からMJIITが進めている防災研究に関する説明を行い、学生や教職員の交流プログラムや、共同研究発表が行われた。

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望
12月		マレーシア政府高等教育省イデユリス大臣がMJIT来訪	○	○		[2]		12月8日、高等教育省イデユリス大臣がMJITに公式訪問した。目的は教育・研究の進捗状況視察。デユリチャー・クアラランブールキャンパス長からの概要説明後、ルビヤ院長から教育組織・大型プロジェクトの説明があり、防災教育の新組織も紹介。イデユリス大臣は、日本との教育・研究の一層の連携、大型プロジェクト等を通じた院生教育連携、日本式教育とMJIT間でユニークな教育・研究体制構築が必須と強調。その後、分子生物学・生態工学の実験室を視察。岩本准教授からは、藻類・エネルギープロジェクトの推進状況、つくば市が日本の科学集積地との説明。杉浦教授からは、本学が地の利を生かし、MJITに協力していると説明。
		ペラ州予備科訪問		○	○			12月12日と13日にペラ州の国立予備科であるPerak Matriculation Collegeを訪問し、学生にMJITおよび筑波大学の説明を行った。
		弥永教授来訪サポート	○			[1]		12月28日～30日のビジネス科学研究科弥永真生教授のマラヤ大学図書館利用にあたり、図書館への交渉等、来訪のサポートを行った。
		マレーシア高等教育大臣一行が筑波大学を訪問	○	○		[8]		12月15日、Idris マレーシア高等教育大臣、Rujhan Mustafa マレーシア大学評価機構事務局長、Wahid Omar UTM副学長及びマレーシア高等教育省一行が本学を訪問、ペントン副学長、大根田国際室長、松本生命環境系長及び白岩学長補佐等との懇談を行った。ペントン副学長が本学概要及び国際戦略を説明し、野村准教授(生命環境系)がTAG-AIMSプログラムを紹介した。Idris大臣からMJIT・本学間のジョイントディグリープログラムやMJIT内防災研究センターについて活発な質問があった。その後、藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター及び陽子線医学利用研究センターを視察。
		MJITコンソーシアム第16回会合	○	○	○			12月15日、マレーシア日本国際工科院(MJIT)コンソーシアム(JUC)第16回会合が、外務省にて開催され、ペントン・キャロライン副学長、生命環境系宮本邦明教授、生命環境系浅沼順教授、システム情報系甲斐田直子助教、松崎広好国際室担当課長、国際室MJIT担当山下陽子が出席した。
		日本留学フェア参加(JASSO Study in Japan Pavilion 2015)		○				12月19日、20日、日本留学への情報を提供するStudy in Japan Pavilion 2015が日本学生支援機構(JASSO)主催で行われた。筑波大学からはブース説明のため、学生交流課から矢内係長と五十嵐専門員が参加。杉浦特命教授と岩本准教授も情報収集を行うと共に、今後の連携協力を呼びかけた。
		日本留学フェア参加(帝京マレーシア日本語学院主催Study in Japan Info Day)		○	○			12月21日、日本留学の情報提供の場として、Study in Japan Info Dayが帝京マレーシア日本語学院主催で行われた。留学生獲得に大きな意義を持つと予測されたため、岩本准教授がネットワーク構築を兼ねて会場を視察した。イベントは盛況で、学生が熱心だった。帝京マレーシア日本語学院は、在馬日本語学校の中でも老舗。齋藤健次社長とMJITとの連携についても対話できた。
H28 1月		ジョイントディグリープログラム推進会議		○	○	[4]		1月7日および8日に筑波大学より辻村教授、水野谷准教授、内海准教授、甲斐田助教がMJITを訪問し、ジョイントディグリープログラム推進に関する会議を行った。
	2月	AIMS/TAG プログラム 受入学生のサポート		○				2月23日、AIMS/TAG プログラム 受入学生であった本学学生1名(生物資源学類4年生小倉舜君)がMJITの環境グリーン工学科での留学を完了し、日本へ無事帰国した。本学マレーシアクアラランブール・オフィスのサポート完了。小倉君自身が、初めて接するマレーシアの文化、風習、大学環境等を週刊でレポートした。彼の奮闘からマレーシアの実情や教育環境を知る手がかりが得られた。(2015年9月からの5か月間、本学 生命環境科学研究科HPに掲載)
		GC職員来訪サポート				[2]		2月2日にグローバルcommons機構 田中慶職員と油原ゆう子シニア・スタッフが職員交流のためにMJITを来訪した際のサポートを行った。
	筑波大学 & マレーシア工科大学教育研究交流プログラム 受入学生のサポート		○				筑波大学 & マレーシア工科大学教育研究交流プログラムにより、3月初旬MJIT来訪予定の本学学生9名の受入れ準備を本学マレーシアクアラランブール・オフィスが行った。	
3月		筑波大学 & マレーシア工科大学教育研究交流プログラム 受入学生のサポート		○		9 [1]		筑波大学 & マレーシア工科大学教育研究交流プログラム3月3日～3月10日をサポートした。本学学生9名が3月4日にMJITに来訪し、開講式出席、各人の研究や興味に基づき独自で計画した訪問先を訪問。MJITの各iKohzaのゼミ、MemoBio & Algal BiomassやShizenのRinko(輪講)に参加し、午後はUPMを訪問。その後、森林研究所(FRIM)やマラヤ大学等の研究室を訪問した。
		Publication Workshop参加学生の来訪学生サポート		○		3		3月7日～3月11日にMJITで行われたIWA Publication Workshopで筑波大学より3名の大学院生が参加した。
		JASSO奨学金による大学院生の派遣		○		8		3月後半から、MJITの大学院生が5名(生命環境系、内海研究室2名、足立研究室1名、鈴木研究室2名)3～6ヶ月の期間、共同研究のため筑波大学に派遣された。また他3名が1週間鈴木研究室および石田研究室で共同研究を行った。
		リバネス講演会実施		○				3月14日に筑波大学KLオフィスのサポートで、MJITのCPE2年生を対象に、理系学生のキャリアパスに関する講演会を行った。その中で筑波大学が重点的に紹介された。

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望		
		筑波大学・MJIT 国際共同学位プログラム推進ワークショップを開催	○	○		9 【7】		3月8日、MJITにおいて、筑波大学・MJIT 国際共同学位プログラム推進ワークショップを開催。持続環境科学分野の国際共同学位修士プログラム、共同指導体制や共同研究、学生相互派遣について、報告があった。ディスカッションでは、本プログラムの独自性やさらなる連携強化、日本による多様な支援の可能性について、活発な意見交換がなされた。在マレーシア日本大使館およびJICA マレーシア事務所からの出席をはじめ、30名を超える参加者があった。		
		イーストアングリア大学地域オフィス訪問			○			3月9日、クアラルンプール・オフィス副所長の岩本浩二准教、前クアラルンプールオフィス長の白岩善博教授および Tuan azma binti Tuan ismail 筑波大学クアラルンプールオフィスアシスタントが英国イーストアングリア大学地域オフィス(UEA: University of East Anglia, Malaysia Regional Office)を訪問した。UEA は英国屈指の名門大学。本学との直接交流の他、お互いにクアラルンプールにオフィスをもち利点を活用し、マレーシアを介してのトライアングル交流等についても話し合われた。		
H28	4月	U.TSUKUBA-MJIT COOPERATION OFFICE開所式開催	○	○	○			4月5日、筑波大学環境防災研究棟にて、U.Tsukuba-MJIT Cooperation Office開所式を開催。マレーシア高等教育大臣、マレーシア高等教育省高等教育局長、MJIT院長他一行が永田恭介学長、ベントン・キャロライン副学長(国際担当)、三明康郎副学長(研究担当)、松本宏生命環境系長等との懇談を行い、開所式に出席。同オフィスは、本学とMJITとの相互パートナーシップと協働関係の更なる活性化と長期的な共同研究や共同教育プログラム推進を支援するため設置。現時点での機能としては、MJIT Tsukuba Office、Joint Degree Coordinator Office、MJARC-U.Tsukuba Collaboration Office、JUC DRMP Secretariat Office(防災修士プログラム)である。		
		MJITマネージメントミーティング			○			4月7日、MJITにて、マネージメントミーティングが開催され、CiC、MOA承認がなされた。		
		MJIT第3回防災小委員会			○				4月7日、幹事校として本学宮本邦明教授の議事進行のもと、マレーシア日本国際工科院(MJIT)第3回防災小委員会がJICA本部で開催された。本学からは佐藤兆昭副理事(国際担当)、宮本教授、システム情報系甲斐田直子助教、国際室MJIT担当山下陽子が出席した。	
		MJIT第20回運営管理委員会			○				4月19日、マレーシア日本国際工科院(MJIT)第20回運営管理委員会が、JICAにて開催され、生命環境系宮本邦明教授、システム情報系甲斐田直子助教、国際室MJIT担当山下陽子が出席した。	
		CiCスカイプ会議				○			4月21日、クアラルンプール・オフィス所長杉浦則夫特命教授、同副所長岩本浩二准教授が、スカイプ会議にて、東照雄国際室特命教授からCiCの個別講義を受け、UTM/MJITにおけるCiCについて理解を深めた。その他にも、CiC担当Glisic Jelena、国際室MJIT担当山下陽子が出席した。	
		KLオフィス運営委員会発足準備	○	○	○				KLオフィス関連事業の円滑な推進のため、運営委員会を発足させるための準備をすすめた。	
	5月	ジョイントディグリープログラム推進打ち合わせ						【1】	5月10日にMJIT原准教授が筑波大学を訪問し、甲斐田助教らとジョイントディグリープログラムに関する打ち合わせを行った。	
		海外拠点長等連絡会事前協議に出席				○			【1】	5月25日、翌日筑波大学で開催される海外拠点長等連絡会の事前協議にクアラルンプール・オフィス所長、杉浦則夫特命教授と拠点事務担当山下が参加した。連携を強化することで、筑波大学海外オフィスの機能向上を図る。
		海外拠点長等連絡会				○				5月26日、筑波大学で開催された海外拠点長等連絡会に、拠点事務担当山下が参加した。連携を強化することで、筑波大学海外オフィスの機能向上を図る。
		ジョイントディグリープログラムに関するMJIT-EGT教員へのブリーフィング開催								5月31日にEGT所属教員に対してMJIT-筑波大学間で実施を予定しているジョイントディグリープログラムに関する説明会を実施した。
		ジョイントディグリープログラム推進会議					【3】	5月31日および6月1日に筑波大学より辻村教授、内海准教授、甲斐田助教がMJITを訪問し、ジョイントディグリープログラム推進に関する会議を行った。		
6月	防災プログラムに関する協議			○			【3】	6月2日に筑波大学より宮本教授、浅沼教授、甲斐田助教がMJITを訪問し、防災プログラムに関する協議を行った。2016年9月に実施が予定されており、それに向けて順調に準備が進められている。これらのプログラムはMJIT にとっても大きな意義を有する事業であることから、MJIT における筑波大学の存在感は、今後も大きなものになると考えられる。		
	JUC専門委員会				○		【3】	上記に引き続き6月3日に、筑波大学の宮本教授、浅沼教授、甲斐田助教が、MJITにおいてJUC専門委員会に参加した。		
	英国イーストアングリア大学の筑波大学KL オフィス訪問				○		【3】	6月3日、英国イーストアングリア大学(UEA)のデビッドリチャードソン学長、ピートリヤンKLオフィス管理者、UEA 本部スタッフが筑波大学サテライトオフィスを来訪した。今回の訪問は筑波大学サテライトオフィスの現状を視察するため。MJIT および筑波大学の概要は、本学クアラルンプール・オフィス副所長の岩本浩二准教授が、サテライトオフィスの状況は同オフィス所長の杉浦則夫特命教授がそれぞれ説明を行った。今後の筑波大学との交流に関しては、とくに日本語・日本文化の分野で学生交流を、またサテライトオフィス間のさらなる情報交換を行っていくこととなった。		
	TGSW招聘調整				○			9月中旬につくば国際会議場において開催されるTGSWIに招聘する方を調整。		
		本学同窓生Muhamad Askari 博士MJIT 赴任					○	【1】	7月18日に本学同窓生のMuhamad Askari 博士が環境グリーン工学科の講師として赴任した。Askari 講師は生命環境系田中正名教授の指導で2010年に筑波大学で博士号を取得した。その後マレーシア工科大学環境工学科の講師を勤め、この度、防災関連プロジェクト推進のため、MJIT へ赴任することとなった。防災関連プロジェクトはMJITをサポートする日本大学コンソーシアムにおいて筑波大学が幹事校を行っている重要なプロジェクトであり、Askari 講師の今後の活躍に期待したい。(2015年度本学同窓会幹事)	

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望
7月		生命環境系教員来訪		○		[4]		7月18日、ジョイントディグリープログラム推進のため、甲斐田直子助教、辻村真貴教授、内海真生准教授、原准教授が来訪した。
		生命環境系プロテクト研究チーム来訪	○	○		4	[1]	7月22日、プロテクト(原生物)採集のため、宮田凌佑生(生命環境科学研究科M1)、鈴木大智(同M1)、白鳥峻志日本学術振興会特別研究員、矢崎祐規(生命環境科学研究科D3)、稲垣祐司教授が来訪。そのサポートをした。
		TGSW招聘調整			○			9月中旬につくば国際会議場において開催されるTGSWIに招聘する方を調整。
8月		災害リスク管理セミナーを開催	○	○				8月2日、マレーシア日本国際工科大学とJICAおよび筑波大学による災害リスク管理セミナーを開催され、サポートにあたった。
		SGH 土浦第一高等学校のマレーシア国研修		○		17	[4]	8月18日～20日、SGH 土浦第一高等学校が筑波大学支援の下、マレーシア工科大学のマレーシア・日本国際工科大学(MJIIT)を研修訪問した。土浦一高では昨年度もMJIITを訪問し顕著な成果をあげているが今年度は「Be Pioneer! マレーシア・ワールドワークで作る茨城発のビジネスプラン」のテーマを掲げ、松本穂高先生、金井大貴先生、猪越さゆり先生、中越愛様(添乗員)引率により17名の高校生が来校した。MJIIT 側ではMJIIT 経営工学科の石崎浩之先生を中心に環境グリーン工学科の原啓文先生、杉浦則夫(筑波大学特命教授)先生そしてMJIIT 数名の学生諸君が対応にあたった。
		MJIIT第4回防災小委員会		○	○			8月23日、幹事校として本学宮本邦明教授の議事進行のもと、マレーシア日本国際工科大学(MJIIT)第4回防災小委員会がJICA本部で開催された。本学からは生命環境系宮本教授、浅沼教授、システム情報系甲斐田直子助教、国際室松崎課長が出席した。
		MJIIT第21回運営委員会/コンソーシアム第17回会合	○	○	○			8月26日、マレーシア日本国際工科大学(MJIIT)運営委員会・コンソーシアム(JUC)が、外務省にて開催され、生命環境系宮本邦明教授、生命環境系浅沼順教授、松崎広好国際室担当課長が出席した。
		TGSW招聘調整			○			9月中旬につくば国際会議場において開催されるTGSWIに招聘する方を調整。
9月		MJIIT防災修士プログラム開講	○	○		[1]		9月5日、マレーシアでは初めてとなる防災関連の大学院修士プログラム(Master of Disaster Risk Management: MDRM)がマレーシア日本国際工科大学(MJIIT)で開講した。本修士課程は、マレーシア高等教育省を通じ本学・MJIIT 杉浦則夫教授、後藤雅史教授、岩本浩二准教授に組織立ち上げ支援打診があり、設立に至った。その際、日本の大学コンソーシアム(27大学加盟)において本学を幹事校とする新たな防災小委員会の設置や、生命環境系宮本邦明教授が中心となったMJIIT と連携したカリキュラム構築など、本学の多大な貢献があった。 開講式では、Rubiyah MJIIT 院長および後藤雅史マレーシア日本先端研究所(MJARC)防災研究部門長の挨拶の後、宮本教授から本プログラム説明があり、第一期生として15名が入学したが、政府関連機関関係者や医学関係者等が含まれ、非常に多彩な顔ぶれとなった。 本プログラムおよびMJARC 防災研究部門は、日本-マレーシアの水災害関連の教育研究の拠点として、また将来的には東南アジアの水災害研究ネットワークのHubとなることを目標としている。
		Zaini Ujang 客員教授による特別講義を実施(TGSW)	○	○		[1]		9月18日、Zaini Ujang 生命環境系客員教授(マレーシア エネルギー・グリーン技術・水省事務次官、前マレーシア高等教育省事務次官、前マレーシア工科大学(UTM)学長)による特別講義が開催された。本講義は、筑波大学主催Tsukuba Global Science Week (TGSW)のセッションの一つとして行われた(コーディネーター:生命環境系内海真生准教授)。 「From Ecology to Eco-Strategy: Shaping the Sustainability Pathways in Developing Nations」と題した講義では、環境と経済のwin-win 関係を通じて持続的発展を実現するための社会設計のあり方を提示し、創造的かつイノベティブな環境保全・利活用、それを可能にする教育・研究についてのビジョンも言及された。国内外からの50名以上の参加者と活発な議論がなされた。 本オフィスは、生命環境系内海真生准教授、システム情報系甲斐田直子助教と共に、長期にわたって本イベントの調整を行った。
		Campus-in-Campus (CiC) 調印式実施(TGSW)	○	○		[2]		上記TGSW期間中である9月19日、本学が取組むスーパーグローバル大学等事業の中核となるCampus-in-Campus (CiC)を推進するため、本学・マレーシア工科大学(Universiti Teknologi Malaysia (UTM))におけるパートナー協定を結ぶための調印式を実施された。UTM からはAhmad Fauzi Ismail副学長(Deputy Vice Chancellor)、本学からは永田学長等が出席した。 本オフィスは、東照雄特命教授(国際室)と共に準備・調整を遂行した。
		第2回海外同窓生ネットワーク年次大会開催(TGSW)			○	[1]		上記TGSW期間中である9月18日、第2回海外同窓生ネットワーク年次大会が開催され、マレーシア同窓会からは、本年4月より新代表に就任したDr. Mohd Afendi Bin Rojan(現在 the Universiti Malaysia Perlis (UniMAP) in Pauh Putraにて勤務)と在学生Muhamad Aimanさんが発表を行った。 本年7月29日に、Afendi氏が本オフィスを訪問した際打合せを行い、当日も所長・副所長共に出席した。
10月		マレーシア交流会開催		○	○			10月31日、岩本浩二准教授の引率の下、マレーシア・日本国際工科大学(MJIIT)から14名の学生が本学訪問。 マレーシアからの留学生や本学マレーシア関連職員との交流会を行った。
		MJIIT Environmental Green Technology(EGT)小委員会会合			○			10月14日、MJIITのEGT小委員会会合に出席し(TV会議)、EGTのリエゾン担当(筑波大学)として運営サポート等を強化した。
		第1回クアラルンプールオフィス運営委員会開催			○	[2]		11月15日、杉浦所長、岩本副所長の下、第1回クアラルンプールオフィス運営委員会を開催。各部署から新たに就任した運営委員と関係職員の顔合わせを行うとともに、今年度クアラルンプールオフィスの運営体制、活動計画、活動報告等について、活発な議論が行われた。
		マレーシア交流会開催			○			上記同日、本学環境防災研究棟1階ラウンジにて、マレーシア人留学生・マレーシア留学経験者、上記運営委員、関係職員と本オフィス主催交流会を実施。現地菓子やハラールフードと共に、文化・習慣を共有した。同棟1階104号室に、U.Tsukuba - MJIIT Cooperation Officeを本年4月に設置したことを改めて紹介。 マレーシア人留学生会代表 Ms.Hidayah bt. Megat Nabil Mohsinからのスピーチがあった。なお、生命支援室マレーシアチームからの強力な支援により、スムーズに遂行できた。

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入(人)	派遣(人)	備考:成果・展望
	11月	マレーシア工科大学においてCampus-in-Campus (CiC)コンセプトを紹介	○	○				<p>11月24日、マレーシア工科大学(UTM)において、“Launching of Global Mobility Program-The Jukebox Concept”をテーマとしたシンポジウムが開催され、東照雄特命教授(国際室)及び辻村真貴教授(生命環境系)が参加し、本学のスーパーグローバル大学事業の中核的コンセプトであるキャンパス・イン・キャンパス(CiC)やジョイントディグリープログラム構想等について説明を行い、CiCや科目目ジュークボックスモデルのコンセプトを広くマレーシアの大学関係者に紹介した。</p> <p>【2】 本シンポジウムは、マレーシアのIdris bin Jusoh高等教育大臣出席の下、Wahid bin Omar UTM副学長他、マレーシア国内の26の公立大学や日本国内の大学から関係者が参加し、本学のCiCコンセプトを中心とした活発な議論が行われた。また、本シンポジウムでは、本学のベントン・キャロライン・ファーン副学長(国際担当)他のビデオメッセージが紹介された。</p> <p>本協定は、両大学の教育研究資源を共有することにより、互いの教育研究能力の向上に資するとともに、学生、教職員の相互交流を飛躍的に促進することを目的としている。本オフィスが当準備調整を行った。</p>
	12月	帝京マレーシア日本語学院Study in Japan Info Day 2016参加			○			<p>【2】 12月19、20日、帝京マレーシア日本語学院で開催された留学フェアStudy in Japan Info DayにKLオフィスから岩本副所長と現地スタッフAzma氏が同日参加した。(日本からは14大学、3専門学校が参加)</p> <p>同院の学生に加えて、同院の入学を考えている高校生とその父兄、マレーシア政府海外留学奨学金を得て留学先を選定している学生の参加もあった。また、筑波大学のブースでは、同院の在学生で、筑波大学への入学を志望している李凱翔さんの協力も得られた。なお、同院は、日本国外で唯一の文部科学省「大学入学のための準備教育課程」の指定を受けた日本語教育機関であり、非常に効率の良い留学生募集の場となった。</p>
H29	1月	お茶の水女子大学の職員研修をサポート			○			<p>【2】 1月16-20日、お茶の水女子大学の職員研修を受け入れた。</p> <p>2016年9月に、本学とお茶の水女子大学が大学間連携協定を締結したことを受け、お茶大職員研修員をKLオフィスに受入れ、下記研修訪問先に対し事前交渉を行い、当日同行を遂行した。これは他に例を見ない画期的な活動であり、大変有意義なものとなった。</p> <p>同行者: 岩本副所長、Azma氏 訪問先: KLオフィス、Marzuki Khaled Industrial Museum, MJIT、UniKL、MJHEP、MJIT、MJIT寮長、Za' ba (7th) Residential College, UM、Masjid UTM KL(モスク)、図書館(PSZ)、ビジネス&先端技術センター(BATC Lodge) 議題: 学生募集、学生教育・支援システム、財政援助、ホステルと寮、職業訓練 ※MJHEPとは、マレーシア政府資金による留学生派遣事業 Malaysia Japan Higher Education Program: マレーシア日本高等教育プログラムのこと。</p>
		地球規模課題プログラム(学士)(BPGL)にマレーシア予備教育機関を紹介			○			<p>SGU関係で、本年10月に新規開講する、本学の英語による学位プログラム「地球規模課題プログラム(学士)(BPGL)」チームへマレーシアの予備教育機関の窓口担当を紹介。</p>
	2月	AIMS/TAG プログラム 受入学生のサポート		○		2		<p>2月13日、AIMS/TAG プログラム 受入学生である本学 柏木沙希さんがマラヤ大学ビジネス会計学部短期留学するため、マレーシア クアラルンプールに到着。本学KLオフィス現地スタッフAzma氏が空港から寮まで引率した。また、2月16日に到着した同プログラムの小野君とともに、同日開催された下記パネル会議参加の本学ベントン副学長にも面会することができた。</p>
		UTM Study Abroad Fair (SAF) 2017参加			○			<p>【2】 2月14日～15日、UTM JB主催のStudy Abroad Fair 2017に、KLオフィス副所長岩本浩二准教授と現地スタッフAzma氏が参加し、留学を希望する学生に筑波大学の紹介するとともに、学生からの個別の質問へ対応した。本学参加は、2015年に続いて2回目。来場者数は全体で約1000人。参加校は欧州アジアを含め、13カ国26校。</p>
	マレーシア日本国際工科院(MJIT)アドバイザリーパネル会議開催			○				<p>【2】 2月16日、マレーシア日本国際工科院(MJIT)アドバイザリーパネル会議が開催され、JUC代表として本学ベントン・キャロライン・ファーン副学長(国際担当)が、文科省大臣官房付・シニアオフィサー(国際担当)竹内様と共に来馬。UTMワビド学長とMJITルビヤ院長から、日マ関係者に、MJITの進捗状況の報告があった。</p>
	本学ベトナムオフィスおよび日越大学視察			○				<p>【2】 2月20日～21日、筑波大学ホーチミンオフィスおよび日越大学(VJU: Vietnam Japan University)に、KLオフィス所長杉浦剛夫特命教授並びにKLオフィス副所長岩本浩二准教授が視察訪問。ホーチミンオフィスにおいては筑波大学現地職員のMs. Ngo Thi Doan Phuong(フォンさん)から業務内容の説明を受け、施設視察。VJUではHo Nhu Hai総務部長から説明を受け、施設視察。VJUではコースごとに幹事校が決められており、現在は筑波大学や茨城大学を含む7幹事校で6つの修士コースが開講され、67名の学生が在籍中。日本式教育はシステムティックとコーポレーションでは無いかとの意見であったのが印象的。その他今後の連携についても話し合った。</p>
3月	マレーシア高等教育省アイヌル次官一行が永田学長を表敬訪問		○	○				<p>【7】 3月13日、マレーシア高等教育省Noorul Ainur Mohd Nur次官一行が、本学永田恭介学長を表敬訪問した。</p> <p>なお、マレーシア高等教育省Mohd Nor Azman bin Hassan私立大学担当次長、マレーシア工科大学(UTM)Zainuddin Abdul Manan副学長(学術・国際担当)、マレーシア・日本国際工科院(MJIT)Rubiyah Binti Yusoff院長、Mohd Sharil Abdullah事務長および、Dr. Khairunnisa binti Mohd Paad(訪問調整補助)および、JICA専門家 林伸江氏が同行。事前調整から実際の当日訪問において、KLオフィス所長杉浦剛夫特命教授が全面支援を遂行した。</p> <p>一行は、永田学長への表敬訪問の他、ベントン・キャロライン・ファーン副学長(国際担当)や本学の関連教員との意見交換後、藻類バイオマス・エネルギー大規模実証施設を視察。</p> <p>本訪問を通してマレーシアの高等教育機関との更なる交流を推し進めることができた。</p>
	教育戦略プロジェクト調査をサポート			○				<p>【3】 3月15日、本学三田部勇体育系准教授、藤田晃人間系教授、田邊良裕グローバル教師力開発推進室員が来訪し、教育戦略プロジェクト調査を実施する際、事前調整よりサポートを遂行した。</p>
	GFESTプログラム実施のためKLオフィス来訪		○			2	【3】	<p>3月20-21日、GFESTプログラム実施のため、本学相山康道システム情報系教授、佐藤忍生命環境系教授、井上 琴美生命環境科学研究科修士2年、中村憲史数理工学物質科学研究科博士1年、尾嶋好美GFESTコーディネータがKLオフィス来訪した際、支援を行った。</p>

筑波大学マレーシアKLオフィス交流活動実績[平成25年度(2013年度)～]

年	月	活動	研究	教育	その他	受入 (人)	派遣 (人)	備考:成果・展望
		TAG-AIMSプログラムフォローアップミーティング実施支援		○		13 【2】		3月24-26日、本学野村名可男生命環境系教授、生命系AIMSチーム田中隆行氏、TAG-AIMSプログラム第5回派遣学生・受入学生計13名がマラヤ大学内に集結し、TAG-AIMSプログラムフォローアップミーティング実施をする際、支援を行った。
		Global Mobility Program支援		○				MJIIT学部生36名(CPE:Chemical Process Engineering)をGMP(Global Mobility Program)のもと、今夏筑波大学に短期留学させるべく調整。 (7/F-8/F,CiCスキームに基づき単位取得)
H29	4月	KLオフィス体制変更			○			2017年4月より、新KLオフィス所長に辻村真貴教授(生命環境系)、同オフィス副所長に引き続き岩本浩二准教授、新たにシニアアドバイザーとして前オフィス所長 杉浦則夫名誉教授が就任された。
		Alumni代表変更			○			2017年4月より、Malaysia Alumni代表者がDr. Syafiq Fauzi Bin Kamarulzamanに決定。同氏は2006-2015の間本学に在籍(システム情報工学博士課程卒)。今秋開催TGSW Alumniセッションに招へい予定。本年の同セッションに出席する在学生代表としては、Ms. Nik Nur Natalia Binti Nik Ismail (人文・文化学群3年生)に決定。
		リクルーティング計画策定、方針改定用調査			○			本学国際室国際戦略(リクルーティング担当)チームによる調査に、主にKLオフィス副所長岩本浩二准教授、現地スタッフTuan Azma氏が協力をすると共に、本年度のリクルーティング計画策定を遂行。
		Global Mobility Program支援			○			MJIIT学部生36名(CPE:Chemical Process Engineering)をGMP(Global Mobility Program)のもと、今夏筑波大学に短期留学させるべく調整。 (7/F-8/F,CiCスキームに基づき単位取得)
	5月	MJIITより大学院特別研究生受け入れ		○		1		MJIIT EGT修士学生1名を、生命環境科学研究科環境科学専攻に受け入れ(受入教員: 甲斐田直子准教授)。5/10-8/10の3ヶ月間滞在。
		Joint Degree Programキックオフイベント開催支援			○			8月29日Joint Degree Programキックオフイベント開催に向け、学長をはじめ本学から複数教員訪馬予定。生命環境系JDPプログラム担当の方を中心に開催準備。
		Global Mobility Program調整支援			○			MJIIT学部生36名(CPE:Chemical Process Engineering)をGMP(Global Mobility Program)のもと、今夏筑波大学に短期留学させるべく調整。 (在日期間 7/9-8/5)

H25	学生					19	2	
	教員等					【7】	【14】	
H26	学生					63	22	
	教員等					【21】	【31】	
H27	学生					13	127	
	教員等					【35】	【30】	
H28	学生					38	0	
	教員等					【41】	【17】	
H29	学生					1	0	
	教員等					【0】	【0】	

★受入や派遣の人数は、つくば市本学基準。